

中林梧竹の作品 小城に集結!!

書聖・中林梧竹没後100年記念事業特別展 書聖・中林梧竹 不朽の書

「書聖・中林梧竹100年記念事業特別展」

いよいよ開催迫る!!

全国から名品が集まります

記念事業運営委員会

委員長

山口

紫竹



小城市が生んだ書聖・中林梧竹の没後100年記念特別展が、いよいよ開催されます。

三年余の準備を重ねて行くなかで、梧竹が如何に故郷小城を思い続け、そして心芸と称される書の求道の旅をしていたかが見えてきました。梧竹は、決して神童・天才ではなく、たゆまぬ錬心と修養の中から、最高の芸術性を持った独自の書を完成させました。

今回の特別展は、人間梧竹が見えるよう「人間梧竹の原点」(中林梧竹記念館)、「至極の屏風展」(小城公民館)、「今に生きる錬心の書」(佐賀県立美術館)の三会場で行います。

市民の皆様が、一人でも多く会場に足を運び、郷土の偉人を再確認されることを祈念致しております。

期間

2012.12/15^土 ~ 2013.1/20^日
9:30~18:00

休館日

平成24年12月17日(月)・25日(火)・29日(土)~31日(月)
平成25年1月7日(月)・15日(火)

入場料

3会場共通券 1,000円 (前売り800円、高校生以下無料)
※団体 20人以上800円

チケット販売所

・中林梧竹記念館 ・牛津芦刈商工会
・佐賀県立博物館 など



各会場テーマ

「人間梧竹の原点」 中林梧竹記念館

中林梧竹の人柄に触れる作品 99点

「至極の屏風展」 小城公民館

畳敷の空間で味わう屏風の大作 15点

「今に生きる錬心の書」 佐賀県立美術館

各年代ごとの代表作 71点



2012.
12/15^土
2013.
~1/20^日



「大和真富貴」六曲一双屏風

167cm×60.5cm×12

金屏風に書かれた大作です。癸卯の年（明治36・1903年）77歳の時に書かれ、間近で見ると筆勢も見るができます。梧竹の息づかいが感じられる作品です。

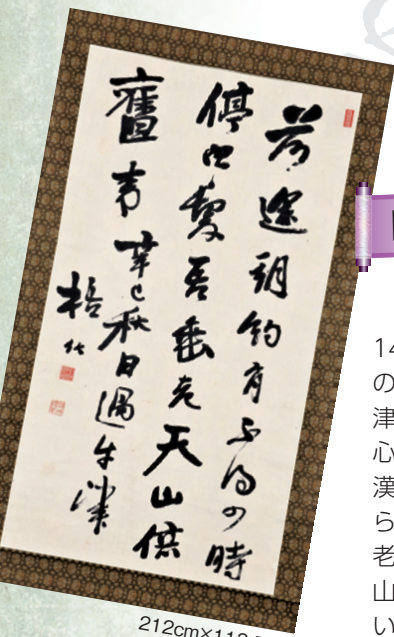


梧竹のゆかりの地



▲生誕地（小城町本町）

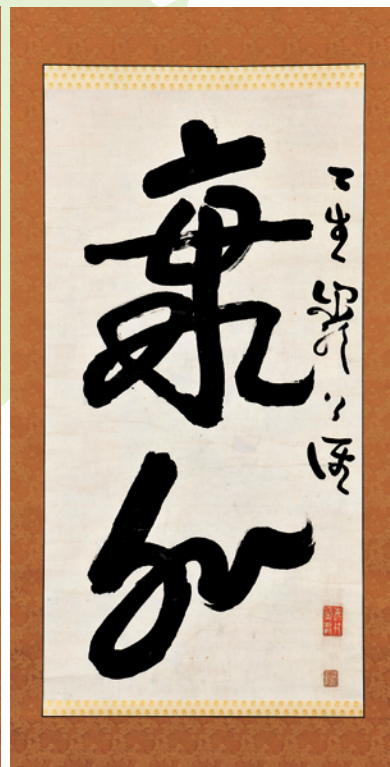
梧竹は、文政10（1827）年小城藩士中林経緯の長男として生まれました。中林家は、代々小城藩士として鍋島家に仕え、通称彦四郎、本名を隆経と言います。前半生は小城藩士として過ごし、明治維新後は書家としての人生を歩むこととなります。56歳で書の勉強のために清国（現在の中国）へ渡り、帰国後は東京銀座の伊勢幸洋服店に住みながら全国各地を旅し、大正2（1913）年87歳の時に三月月村で亡くなりました。



212cm×113.5cm

「前途期約有〜」軸

辛巳の年（明治14・1881年）55歳の時の作品です。牛津を通り過ぎた時の心情を詠んだ自作の漢詩で、「気づいたら白髪が混じるほど老いてしまったが天山は昔と変わらず青い」という内容が書かれています。



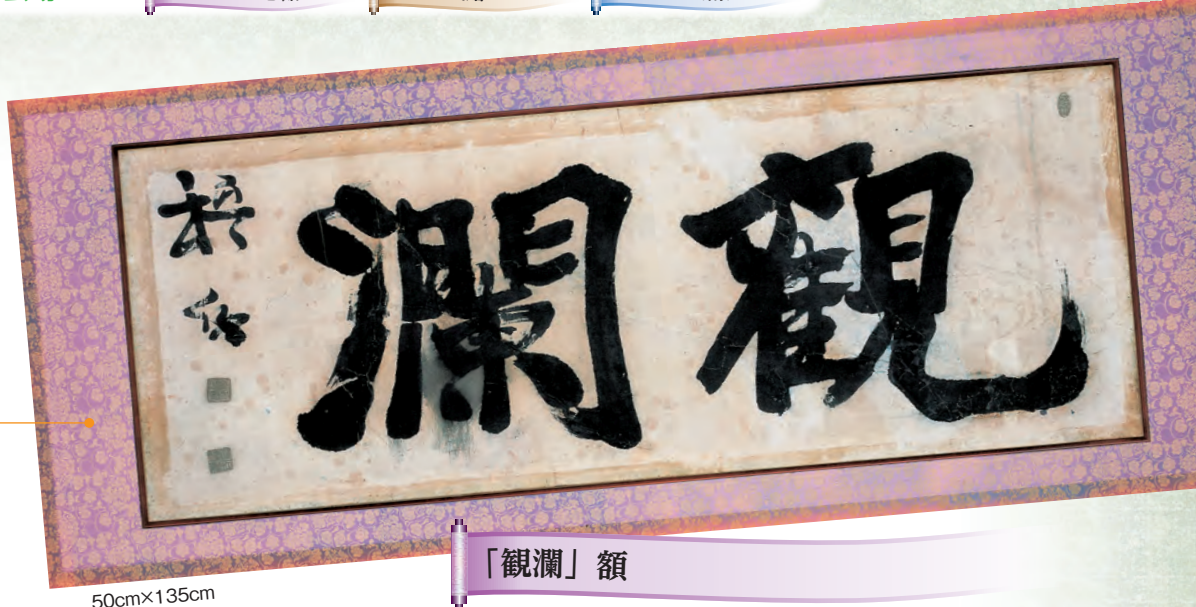
145cm×75.5cm×2

「海外飛香」双幅

梧竹が82歳の頃に書いた作品です。「海外飛香」とは、小城藩二代藩主・鍋島直能なべしまなおよしが集めた和歌集の題名です。「飛香」の二文字が一筆で書かれているように見えます。



145cm×57cm×2



50cm×135cm

「観瀾」額

梧竹が65歳頃の作品です。「観瀾」とは、波打ち際の意味です。芦刈小学校の以前の校名は「観瀾小学校」でした。

Favorite

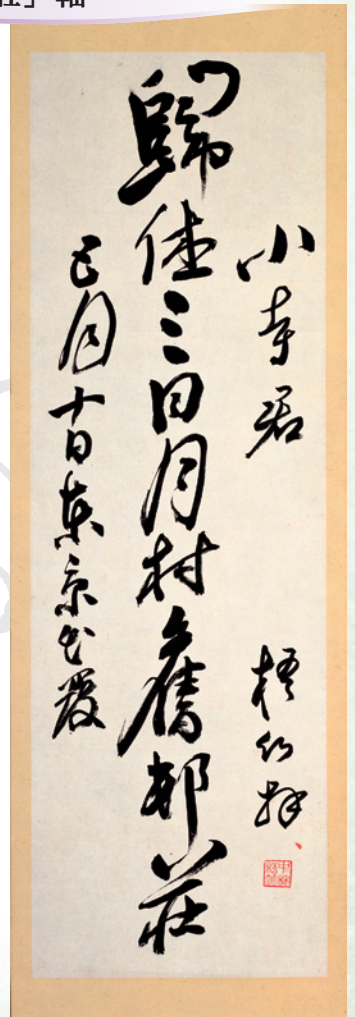


小城市文化連盟会長
中島和夫さん

郷土の偉人、書聖と言われた梧竹翁の作品が全国から集められた、またない機会です。「観瀾」は、芦刈の方なら一度は見られたことがある作品ではないでしょうか。現在は芦刈小学校の校長室に掛けられています。(芦刈町)

「帰休三日月村旧村荘」軸

87歳の時の作品です。親交のあった小寺芳次郎に5月10日に東京を出発し三日月に着いたことを知らせています。梧竹は87歳の5月に病気のため30年近く住んでいた東京を離れ三日月に帰ります。



80cm×25.4cm

「妙法蓮華經神力品」額



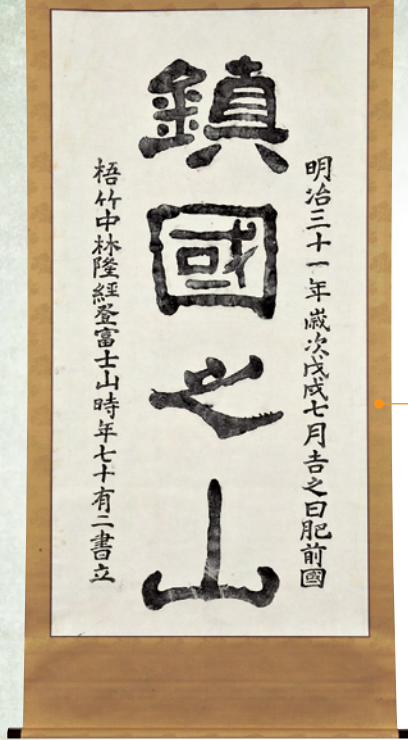
185.5cm×94.2cm

明治20 (1887) 年、61歳の時の作品です。お経の一節が均一に書かれており緊張感が伝わります。親交があった中野健明(神奈川県知事・元佐賀藩士)に贈ったもので、中野家の墓所がある勝妙寺(三日月町)に奉納されています。



▲白羽二重

佐賀出身の明治政府高官副島たねおみ臣の勤めで、明治24 (1891) 年明治天皇に書を献上しました。明治天皇からは白羽二重の御衣が贈られました。



137cm×69.5cm

「鎮國之山銅碑拓本」軸

この拓本は、数年前に梧竹愛好家が富士山で採取したものです。



牛津中学校 教諭
山口昌子さん

富士山に登り、日本一の書家としての碑を建立した梧竹の偉業に誇りと感動を覚えます。「百年後の開花宣言」を見事に実現した梧竹は、小城の宝。ぜひ、「日本梧竹ここにあり」の心意気を体感してほしいと思います。(牛津町)



梧竹は、梧と竹を題材にした絵も多く残しています。自分の屋敷に梧と竹が多く繁っていたので『梧竹』と名乗ったと知人に語っています。

「梧と竹図」二曲屏風



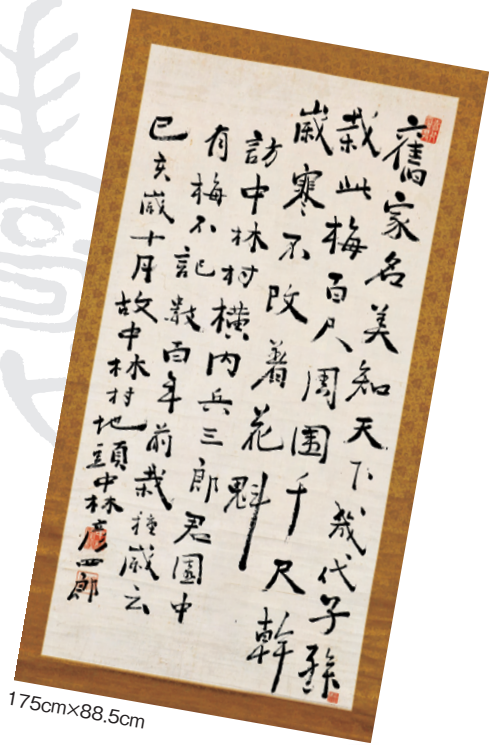
富士山頂に銅碑「鎮國之山」を建立



▲富士山図

◀富士山頂記念写真

明治31（1898）年、梧竹は富士山頂に銅碑を建立させます。このとき初めて富士山に登り、以後80歳までに8回富士登山を行っています。のちに銅碑は落雷により破損しますが、昭和42（1967）年再建されています。日本一高い所にある文字は梧竹が書いた「鎮國之山」と言えるかもしれません。



175cm×88.5cm

「旧家名美天下知〜」軸

己亥の年（明治32・1899年）、72歳の作品です。中林家の先祖は、長野県出身と伝わっており、梧竹が先祖ゆかりの地を訪ねた時の心情を詠んだ詩です。

高校の書道の授業に出てきた王羲之の蘭亭叙を梧竹さんも書いていたと知り、親しみを持ちました。王羲之の蘭亭叙とはまた違う雰囲気で作られています。展示会に行き、ぜひ本物を見たいと思いました。（三日月町）



佐賀北高校
書道科3年
永瀬可奈さん

明治35（1902）年に書かれた作品です。書聖と呼ばれた王羲之の蘭亭叙を手本に書いたものです（臨書）。梧竹は王羲之を敬愛しており多くの臨書作品を残しています。しかし、蘭亭叙の臨書はこの作品しか確認されていません。

「臨・蘭亭叙」額



33cm×280cm



「富士山図」額

41cm×110cm

日本一の山である富士山に特別な想いを持つ梧竹は、富士山の絵も描いています。空を薄く墨で塗り、山の部分を白ヌキにしています。

通称「白富士」と称されています。昭和36年村岡総本舗本店落成記念として購入した梧竹の墨絵です。商品の包装紙にも使用しています。(小城町)

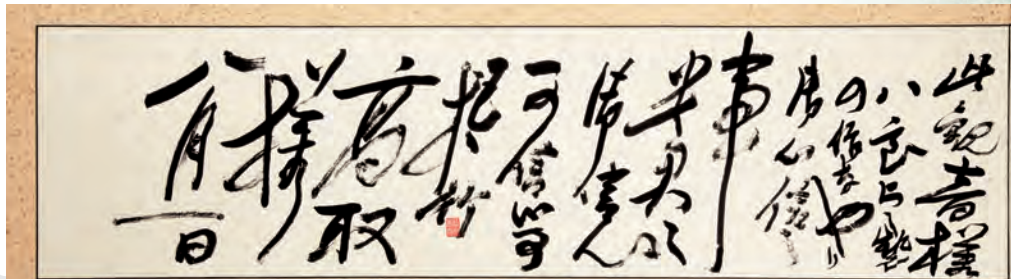


村岡安廣さん
村岡総本舗

仙台で書かれた作品です。「面壁九年我百年」と書かれており、中国の禅宗の祖、達磨大師が壁に向かって座禅すること9年間の末に悟りを開いたという故事と、自らの書の修練をなぞらえています。佐賀では初公開の作品です。

「朱達磨図」軸

67.5cm×24cm



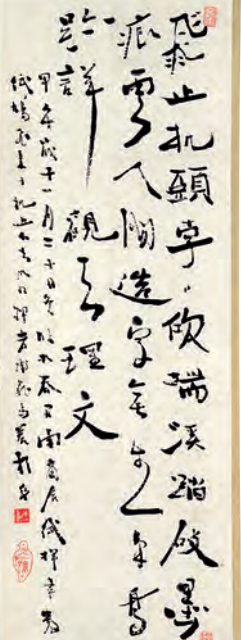
32.3cm×124.5cm

「高取伊好宛書簡」卷子

亡くなる3日前に書かれたもので絶筆とされる作品です。高取伊好は、多久出身の炭鉱経営で財をなした人物で梧竹の支援者の1人でした。ここには、梧竹が所持する観音像を譲ると綴られ、長年の支援に対して少しでも報いたいという心情が伺えます。

「飛止机頭字字~」軸

甲午の年(明治27・1894年)仙台で書かれた作品です。作品を書いているときに鳩が硯に降り立ち、紙の上を歩き回ったというエピソードを詩に詠んでいます。



180cm×63cm



梧竹観音堂落成



▲横綱梅が谷一行との記念写真

◀観音堂(三日月堂)

明治39(1906)年80歳のときに梧竹は故郷小城の地に、信仰する観音像を祭る場所を建立する事を思い立ちます。生家を離れた梧竹は、現在の三日月町金田に観音堂を建てる場所をさだめます。明治41(1908)年、観音堂と住居「梧竹村荘」が落成しました。観音堂には、観音像の他、中林家先祖や尊敬する人物の位牌も安置されています。現在は小城市史跡に指定されています。



関連イベント

・探訪会・

- ・日 時: 12月23日(祝) 9時
(中林梧竹記念館に集合、17時帰着予定です)
- ・定 員: 35人 ※定員になり次第締め切ります。
- ・参加費: 1,000円(昼食代など)
※入場券(1,000円)は別途ご準備ください。
- ・行き先: 各展示会場と市内の梧竹ゆかりの地を巡ります。

・展示案内・

佐賀県立美術館

- ・日 時: 12月22日(土) 14時～15時30分
(案内者/白井右鬼さん: 梧竹の会)

中林梧竹記念館

- ・日 時: 1月19日(土) 14時～15時30分
(案内者/森田和雄さん: 梧竹の会)

・講演会・

- ・日 時: 1月12日(土) 14時～15時30分
- ・演 題: 「中林梧竹 ～温故知新～」
- ・講 師: 野中吟雪さん(新潟大学名誉教授)
- ・場 所: 佐賀県立美術館ホール
- ・入場料: 無料

・連携企画・

- 「多久に残る梧竹の書」
- ・日 時: 12月15日(土)～1月20日(日)
- ・入場料: 無料
- ・問合せ: 多久市郷土資料館 ☎75・3002

◇休館のお知らせ◇

中林梧竹記念館 常設展示室は展示準備のため
12月3日(月)～14日(金)まで休館します。



シャトルバス運行

無料 小城会場 ↔ 佐賀会場

- 無料 12月15日(土)・16(日)
1月 5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)・19日(土)・20(日)
- 時間 中林梧竹記念館 9時発/15時発 ↔ 佐賀県立美術館 11時30分発/16時30分発



主催: 書聖・中林梧竹没後 100年記念事業実行委員会

小城市・小城市教育委員会・小城市文化連盟・梧竹の会・佐賀県立美術館
佐賀県書作家協会・佐賀県書道教育連盟・佐賀新聞社・中林梧竹翁顕彰会

問合せ・申込み 中林梧竹記念館 (桜城館2階) ☎71・1132

